

平成 25 年度 市政運営会議 議事概要

日 時	平成 2 5 年 1 2 月 4 日 (水) 11:40~12:00
議 題	新たな拠点体育館の整備について (事業手法)
出席者	高島市長、貞刈副市長、中園副市長、大野副市長、 総務企画局長、財政局長、市民局長、市民局スポーツ推進部長、 財政局理事、財政局アセットマネジメント推進部長
決定事項	○拠点体育館整備事業については、民間ノウハウの活用、財政負担の軽減及び平準化の面から P F I (B T O) 方式による事業化を進める。
議事要旨	<p>【総務企画局長】</p> <p>・事業手法の選定において、全体事業費の圧縮や初期投資費用の平準化は重要な視点であるが、墨田区総合体育館のように、P F I 手法の最大のメリットである民間の経営ノウハウや周辺施設との連携によるにぎわいの創出等についても積極的に取り入れながら、市民サービスを最大限に高め、新たな体育館経営の先進的なモデルケースとなるよう検討を進めていく必要がある。</p> <p>【財政局長】</p> <p>・本事業については、多額の施設整備費と維持管理・運営経費が見込まれることから、施設整備内容及び事業費についての精査を進めるとともに、今後の事業スキームや公募条件等の検討にあたっては、さらなる経費縮減に向けて取り組んでいただきたい。</p> <p>【大野副市長】</p> <p>・拠点体育館は現在の市民体育館と九電記念体育館の後継として整備するものである。利用者が混乱しないよう、市民体育館の具体的な閉館時期については、よく検討すること。</p>

【中園副市長】

・2020年には東京オリンピックが開催予定であり、市民のスポーツへの期待・関心が高まっていく。ハード・ソフト両面で魅力がある、九州を代表するような体育館を目指して取り組むこと。

【貞刈副市長】

・アイランドシティの環境との調和という基本的な方向性を持ち、周囲との整合性がとれ、常に賑わいがあるような施設となるよう、ハード・ソフト両面で工夫すること。

・他の自治体には、整備費、運営費を低く抑えても素晴らしい施設を整備しているところがある。そのような新しい施設整備の発想を取り入れながら、今後の設計等に取り組むこと。

【高島市長】

・市民が利用しやすい身近な公共施設として、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れること

・アイランドシティの核となる施設であり、アイランドシティの「洗練されたアジア」というまちづくりのテーマに合致し、街の魅力向上にも繋がるような施設となるよう知恵を出し合って取り組むこと